



医学シリーズ (279)

# 喘息をよくし 治すために

喘息大学学長

清水 巍

## 279 41年目の出発「総合的努力」

石川県喘息友の会「わかば会」41年目の出発は「基礎と最新情報」が基本コンセプトである——と4月号の裏表紙に書かせて頂きました。総合的な努力というのを時間的系列で見れば、「基礎から最新情報」までを含んだものということになります。私たちの身体や心、健康、生き方、過ごし方、という身体を中心とした平面的な横の関係全てを含むものが「横の総合」となります。その縦と横・全てを総合して、「41年目」の「これから」への出発とします。

私なりに図で示すと、右図のようになります。BとCの部分を問題にして、「希望を持って、よくするようにする」——それが第14回成人喘息ゼミナールでの「総合的努力」の提起です。

温故知新（おんこちしん）の「カゼの粉薬の活用」、医師の努力、患者さんの工夫の3月号での「好酸球性中耳炎の予防や治療⇔吸っている合剤やステロイド吸入剤を鼻にも耳にも届ける（鼻も耳も呼吸器という概念）」の実践的指導をゼミで行う——などは、図のB身体の左側を良くしようというものです。

そんな総合的な吸入療法、呼出法の方法、生活の仕方を提案している所や人は、世界にも日本にも、ここだけなのです。それは、Aの歴史・時間軸の蓄積の結果、生み出されたものであります。

それに加えて、今度の第14回成人喘息ゼミナールでは、基礎的な学習として、「鼻、副鼻腔、中耳、気道、肺の解剖学的構造と機能的な役割」を私の講演の冒頭で3D画像の供覧で学びます。

2番目に喘息をよくするための「最新、肺気腫と合併喘息（ACOS）の最新薬物療法」（これから発売されるであろうものも含めて）を学びます。

